

・日時	2023 年 2 月 8 日（水） 15:30～16:30		
・出席者	代表取締役社長	最高経営責任者 CEO	酒井 幹夫
	取締役 兼 上席執行役員	最高財務責任者 CFO	松本 智樹

Q.第 3 四半期での北米の植物性油脂事業の第 3 四半期の減益要因と、第 4 四半期の見通しについて。

A.第 3 四半期において、米国サバナの既存工場であるフジベジタブルオイル（以下、既存工場）では、景況感の悪化により販売遅延や高値の原料在庫による採算性低下により収益が悪化した。また、新工場のフジオイルニューオリンズ（以下、新工場）では、インフラ設備の建設遅れやロジスティクスの混乱により、販売数量を伸ばすことができなかった。

第 4 四半期においては、既存工場では、在庫調整一巡と販売進捗により採算性の改善を見込む。また、新工場では、第 3 四半期でインフラ設備は完工しており、3 月末にかけて販売数量を順次増やし、業績の改善を見込んでいる。

Q.ブラマーではトラブルの復旧に時間がかかったが、抜本的な改革が必要ではないか。

A.ブラマーは 4 工場を有しており、フィラデルフィアのイーストグリーンビル、カナダのキャンベルフォードでは、生産性の改善や安定化が進んでいる。一方、シカゴとサンフランシスコのユニオンシティの 2 工場が課題であり、昨年より抜本的な改革の議論を続けている。23 年度には改革の具体策を開示する予定である。

Q.第 3 四半期では日本の利益が回復したが、継続するか。

A.第 3 四半期で、原料高に対する価格改定は進んできたが、今後、エネルギーコストや人件費、物流費の更なる上昇が見込まれることから引き続き価格改定を進めていく必要がある。販売数量面に関しては、インバウンドの取り込みやアイス市場の回復に期待している。また、乳化・発酵素材事業において、カスタードクリームヒット製品が生まれ、今期は販売数量を増やすことができ、第 3 四半期も堅調だった。このように品質が高く、顧客の課題解決に資する製品開発を進めることで、販売数量を伸ばしていきたい。

Q. パーム油の市場価格が今後上昇する可能性があるとの一部報道があるが。

A.インドネシアのバイオ燃料政策の影響を懸念する報道もあるが、既に相場に織り込み済みと考えている。しかし、今後の政策次第では上昇する可能性はゼロではない。今後のリスク低減も含め、原料の相場管理や在庫ポジションの管理を徹底し、タイムリーに販売価格に反映させることが重要であり、事業管理を強化している。

Q. 来年度からの組織再編のポイント、また、最優先で取り組むのはどこになるか。

A.不二製油グループが今後も成長していくためには、コモディティ製品でなく差別化した製品をグローバルで拡販していく必要がある。例えば、油脂であれば、サプライチェーンの強化による認証油の取り扱い拡大や安定供給。チョコレートに関しては、ブラジルやヨーロッパなどでは不二製油の油脂技術を活かした差別化製品の販売を行っているが、さらなる拡販。さらに、事業全体でどのようにポラティリティを抑えコントロールできるかが課題であり、これらの課題解決と現状の可能性を最大限に活かすために、事業軸を強化した組織にて運営を開始する。

最優先で取り組むのは、事業別では植物性油脂事業、業務用チョコレート事業。エリアでは中国市場。

植物性油脂事業では、米国の立て直しと、サプライチェーンの強化により認証油などの高付加価値品を販売する事業への転換を図る。業務用チョコレート事業では、引き続き米国ブラマーの立て直しを最優先課題として取り組む。

中国市場では、マーガリン、フィリング、チョコレートに加え、23 年度半ばにはホイップクリームの新工場が稼働する。課題解決型の販売体制を構築し、収益回復を図る。